

## 国際社会で中国の孤立化は急速に進んでいる。

中国は覇権主義を修正して、国際協調路線に政策を大胆に変えねば自滅する。多くの賢人が活躍した偉大な中国には、国家運営の豊富な経験・知恵・教訓がある。習政権の政策は気品も無く、他国への恫喝外交は餓鬼大將的な幼稚な手法に見える。様々な君主が歴史上表れ、名を遺した中で、このままでは、習政権は最悪・最低の君主と呼ばれるであろう。我が国が東洋の雄である中国と、本気で真の友好を願うなら、「外交も経済も真情に溢れる信頼感を創り上げ」なければならない。橋下徹氏の発言に見られる「日中関係は利用できることは利用する」「ずるく振舞えばよいではないか」などの小ずるい、不真面目な付き合いでは、絶対に真の友好は望めないだろう。

二階氏も、今井補佐官も、伊藤忠丹羽氏等も、親中派と称される外交官の面々も「ずるく、媚びる時は、媚びる」橋下徹氏流の付き合いを過去 30 年続けて来たのだ。餓鬼大將の中国は、ずるくて媚びる日本側の態度に、自らの実力を過信してしまった。「言う事を聞かなければ武力で・・・」の野蛮な手法は、ウイグル、ネパールでさえ完全に納める事が出来ないように、もう 1818 年生まれの哲学者の理論など適用できる時代では無いのだ。

日本の親中派は私利私欲に奔り、中国を滅ぼす手助けをしている様に見える。この時期に、習氏を国賓と呼ぶなど、国民の大半は猛烈に反対している。中国にとって、二階氏等は「親中国」を看板に政界、経済界を従えて来たが、中国の恫喝外交に、世界も我が国民も嫌悪感を持ち、再軍備の機運さえ生まれだしているのだ。

こうした流れは、親中派が心ならずも創り出したことだ。中国の歴史には二階氏等を、日本人のずるい政治家・悪人だったと記録されるだろう。

中国は一帶一路政策で、10 兆円をアフリカだけで無駄にした。

「POLY-GLU も中国批判は止めたがよい」と、助言する人は多い。「世界の底辺で取り残された人々」「彷徨い続けている人々と共に立ち上がろう！」「常に弱者の側に立つ」が、POLY-GLU の理念だ。中国の権力にへつらい、媚を売ってまで協働する事なんて絶対に無い。

中国のアフリカでの失政は、習政権が勇気を持って、政策を改めれば容易に挽回できる事だ。中国には大国らしく自信を持って欲しい。

私の願いは、広大なアフリカを豊かに平和にするには、中国と日本人の優しさ慈悲で、有色人種が信頼の上で協働することだ。

智慧と勇気で中国は、きっと政策転換出来るだろう。

その時が、POLY-GLU の出番だと思っている。